

多元系化合物が牽引する 太陽光利用拡大と応用物理

2021年3月16日(火) 10:00 ~ 17:00

オンライン開催 (録画配信も予定していますが一部録画配信を行わないご講演もございます。)

世界の太陽光発電(PV)システム累積導入量は約600GWを超え、数年後には1TWに達し、テラワットPV時代を迎えることが見込まれており、PVの大量導入社会が着実に近づいています。この世界的な再生可能エネルギーへの転換の流れは、新型コロナ禍を経ても止まることはないでしょう。

本シンポジウムでは、この将来のエネルギー源の主演として期待されるPVについて、デバイス開発、応用に関する研究の第一線で活躍される先生方の講演を通じて、さらなる高効率に向けた技術開発や評価技術の進展、車載や水素エネルギーへの応用展開など、学生等の初学者にもわかりやすく基礎から最新の取り組みまでを俯瞰します。今後のPV研究の方向性や課題、役割を聴講者と共有できる機会となれば幸いです。

みなさまのご参加と上記内容に関する一般講演の投稿をお待ちしています。

招待講演者 / 講演題目 (敬称略, 仮題)

仁木 栄 (NEDO)	拡大する太陽光発電の役割
峯元 高志 (立命館大)	太陽光発電の裾野拡大に向けた情報発信 ~YouTube太陽電池大学~
山口 真史 (豊田工大)	高効率化のアプローチ： タンデム化とフォトンリサイクリング
櫻井 岳暁 (筑波大)	CIS太陽電池における開放起電圧制限要因の考察
別府 孝介 (龍谷大)	XAFSによるCIS系化合物太陽電池材料の局所構造解析
秋山 英文 (東大物性研)	絶対EL計測に基づく太陽電池の内部損失評価と設計
高本 達也 (シャープ)	用途に応じた多接合型太陽電池の設計について
西岡 賢祐 (宮崎大)	太陽光発電由来の水素およびメタン生成

